

## 一家一言

## 日本から始まるロジスティクス技術

ン]である。

では、サプライチェーンを支えるロジスティクス技術はどうだろうか。われわれは、国際貿易と同じように、ともすれば海外で開発されたソフトウェアや3PL (Third Party Logistics) 論など、「舶来」の技術やビジネスモデルに目が奪われがちである。しかし「日本発」として、JIT (Just in Time) やカンバン方式があり、宅配便や共同配送もある。アメリカで生まれ日本で育ちアジアに広がるコンビニエンスストアは、まさに日本流のロジスティクス技術が支えている。こうして生産・流通・消費のさまざまな面で、「日本発のロジスティクス技術」が、世界各国の生活スタイルに大きな影響を与えながら行き渡りつつある。

日本発のロジスティクス技術誕生の背景には、人材や社会特性もあるような気がする。他国に比べ日本では、平均的な教育水準が高く貧富の差も小さいから、互いの立場も理解しやすい。長期雇用・長期契約のもと、律儀で手を抜かない職人気質が尊重される社会でもある。そしてこのことが、安心して技術を積み重ねる労働環境と、付加価値が高く高品質な製品とサービスにつながっている。島国で資源がないというが、人材では資源大国であり、ロジスティクス技術の先進国でもある。

日本発のサプライチェーンやロジスティクス技術がある限り、今後も世界の中で重要な地位を占めることだろう。だからこそロジスティクスにおいても、「舶来もの」に感わされることなく、確かな自信と密かな自負を持ちながら、日本発の技術を磨き続けていきたいものである。

東京海洋大学 海洋工学部 流通情報工学科 (物流システム研究室)  
教授・工学博士

苦瀬 博仁

1973年早稲田大学理工学部土木工学科卒業、1981年同大学大学院博士課程修了。同年日本国土開発株式会社入社。1986年東京商船大学助教授、1994年同大学教授。1994～1995年フィリピン大学客員教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。2006年同大学海洋工学部流通情報工学科長。2004年より東京大学大学院客員教授 (医学系研究科) 併任。



韓国の親しい友人が日本を訪れた際に、下町案内を頼まれた。日本の粋を記した朝鮮日報の東京特派員の論説が、彼を下町巡りに駆り立てたとのこと。彼の興味は、下町の路地に置かれた植木や花、そして掃き清められている小道にあった。その清潔さと細やかな美意識が日本の底力であり、モノづくり大国日本を象徴していると解説する。

また日本には、ソフトな文化を生み出す力も強いと、彼は続けた。確かに、海外に広がるマンガやアニメがある。ポケモンやクレヨンしんちゃんなど日本のアニメは、世界の子供たちを虜(とりこ)にしている。「Japanese Cool」が格好良いことと理解され、「Kawaii」が世界で通用する言葉になりつつある。

買い過ぎとも思ったが、頷ける部分もあった。

ロジスティクスが国際化している、と言われている。日本と東アジア主要国の貿易額は、1980年の9,222億円から2003年の5兆2,530億円と、5.7倍に伸びている。このとき、つつい「輸入する国際化」に目が向きがちである。確かに身のまわりを見渡せば、中国で生産されたカジュアル衣料があり、海外で組み立てられたパソコンがある。しかし輸入品の中には、日本製の材料や部品が含まれていることが多い。たとえばカジュアル衣料の原材料となる高機能繊維や、海外で生産されるハードディスクの基幹部品は、日本から輸出されている。また世界を席卷する韓国製液晶テレビの工場内搬送機器は日本製とのこと。日本は重要部品や製造機械などを供給することで、世界の工場といわれるアジアの基盤技術を担っている。いわば「日本から始まるサプライチェーン」